

セラマットを利用した浴室床暖房工事の施工準備と注意事項

1. 浴室のサイズを測り、図面に落とします。写真も撮っておきます。
2. 温水パイプとセラマットの敷設計画を練ります。(難しくはないが、重要な項目です)
(セラマットの特徴を熟知して、敷設密度が高くなるような敷設レイアウトを考えます)
3. 熱源の設置場所を決めます。(コンセントの有無を確認)
4. 温水パイプの壁貫通位置を決めて、事前に貫通パイプを組み込んでおきます。
5. リフォームの場合は熱源置場まで壁を貫通できるか、壁の種類と貫通道具を選定します。
(壁は木造か、RCか、パネル工法か。布基礎はどこまで上がっているか)
(高性能の壁裏感知機を使用して、壁の中の配線や配管の有無を確認しておけば安心です)
6. 浴室内の壁貫通位置の確認をします。
7. 温水パイプの壁貫通材と防水方法を決めます。(新築の場合は塩ビ製でも良い)
8. リフォームでは、在来浴室側の壁貫通位置は漏水を防ぐため、下記のような金属製の貫通ニップルを貫通材として使い、壁と貫通材、貫通材と温水パイプの間のコーキング処理を確実にします。



9. 基本的には温水パイプは熱源機まで継ぎ目なしの1本物で配管するのがベターですが、接続エルボなどを使っても良い。
10. 温水パイプの始点と終点の位置を決め、そこから熱源までの経路を決めます。
11. 温水パイプのおおよその長さを確定します。(浴室外の熱源機までの距離も忘れないで!!!)
12. セラマットのおおよその使用枚数を算出します。
13. 使用する床仕上材とその枚数を決めます。(タイルの場合は役物の枚数も算出します)
14. 洗い場床と脱衣室床(入り口ドア)の段差をどの程度にするか決めます。
それによっては、排水仕様も変わります。(床段差をゼロに近づける場合は必ず、入り口ドアの前にグレーチングを設置します。)
15. 既存の排水口廻りを綺麗に納めるためには、段鼻内面寸法がセラマットと同じ厚さ(30mm)以上ある垂れ付き段鼻などの役物がある浴室用タイルシリーズを選んでおくと便利です。
16. または、既存排水口をカバーする大きさのグレーチングで排水トラップ全体をカバーします。
17. または、排水口の廻りはセラマットを使わずに、速硬型モルタルで納めてタイルを張ります。
18. 全体像が決まったら、セラマット他の必要部材を計算し、手配します。
19. 施工にあたっては、必ず、セラマットを仮置きしてレイアウトを確認してください。
20. 床暖房敷設後の洗い場の水勾配が確保できているかも事前に確認してください。
21. 工事日までに床暖房用温水器を設置してもらい、工事日は接続のみしてもらう体制にします。
(工事日当日に熱源工事をしてもらっても良いが、時間調整をしておかないと、人工代がかさむ。)
22. コンセントや単独回線が必要な場合も、事前に設置してもらっておくと良い。